

トレーサビリティ・システム普及啓発地域セミナー（高松市）の開催報告

トレーサビリティ・システム普及啓発地域セミナーが11月13日（月）香川県高松市「かがわ国際会議場」において生産者、行政、企業、関係機関 約100名の参加により開催された。中四国農政局管内では18年度は2箇所目の開催で、高松会場は主に四国4県を対象としたものである。

基調講演として、日本GAP協会理事長田上隆一氏より「食の安全・安心と農産物流通改革の方向 日本のGAPとその実践」をテーマに、日本版GAPの取組の状況や必要性・方向についての説明があり、四国経済産業局地域経済部地域経済課長林恒夫氏より「四国地域のトレーサビリティ・システムの取組の現状と支援策」をテーマに、無茶々園（みかん）、井筒屋（讃岐うどん）のトレーサビリティの内容や経済産業省の支援策の紹介があった。

事例報告では、株式会社内子フレッシュパークからり特産開発部長山本慎二氏から、「トレーサビリティによる直売所のブランド化」をテーマに、どうして農産物直売所にトレーサビリティを導入したか、導入内容やシステムの工夫内容について報告があり、株式会社SSR社長吉岡倍達氏からは「国際競争に勝つための日本式農業 トレーサビリティ・システム導入で安全・安心のブランドづくり」をテーマに上海における日本ブランドの状況等についての報告があった。

参加者との質疑応答では、トレーサビリティ関係者からは19年度関連予算の確保の要請が、地方自治体からは農林水産省の施策と経済産業省の施策が同一地域に連携してなされ成果を上げていることに対する評価などの意見があった。



基調講演をする 日本GAP協会 田上 隆一氏



トレーサビリティ・システム普及啓発地域セミナー会場
香川県高松市「かがわ国際会議場」の参加者